

家正則教授が紫綬褒章を受章



伝達式で褒章を胸にした家教授。

国立天文台TMTプロジェクト室長（ハワイ観測所および光赤外研究部併任）の家正則教授が、平成23年度秋の紫綬褒

章を受章されました。

家教授は、すばる望遠鏡を用いた最遠方宇宙の観測に取り組み、2006年には当時で最も遠い銀河IOK-1を発見するなど、世界的な研究成果を挙げられました。また現在は、国際協力で進められている次世代超大型望遠鏡TMT（30メートル望遠鏡）計画の日本代表を務めています。さらに、すばる望遠鏡に搭載されたレーザーガイド補償光学（AO）系の研究開発チームの代表として「宇宙史の暗黒時代」の解明に向けた研究を精力的に行ってています。また、教育者としても多くの優秀な人材を世に送り出しています。家さんの長年の研究業績と、天文学への多大なる貢献が評価され、今回の受章に至りました。

11月15日に行われた伝達式に出席し褒章を胸にした家教授は、「はからずも紫綬褒章を頂くことになり、大変恐縮し

ております。11月15日に褒章と章記を頂いたあと、女優の大竹しのぶさん、なでしこジャパンの佐々木監督ほかの皆さんと、皇居の春秋の間に参内し、入院中の天皇陛下のご名代として、秋篠宮さまからお言葉を頂きました」と、その喜びを語っています。

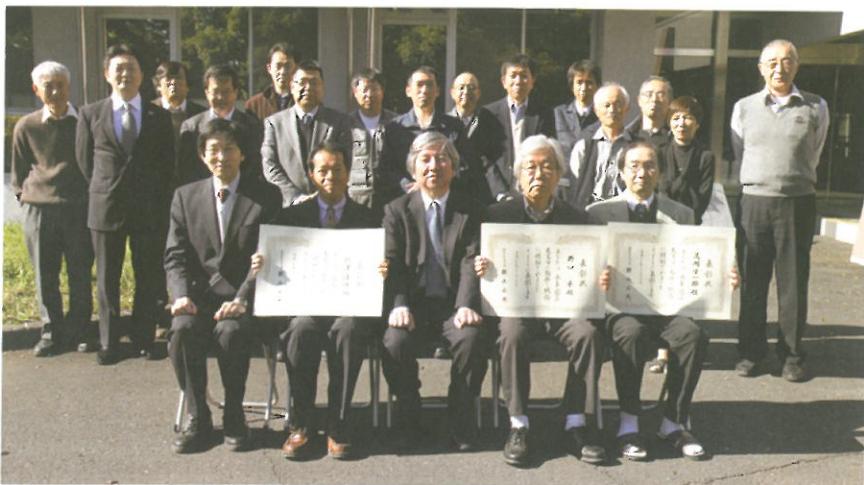


家教授が受章された紫綬褒章と章記。章記には「日本國天皇は 家正則 に多年學術の分野においてよく努め斯界の發展に寄与したことについて紫綬褒章を授与する」と記されています。

紫綬褒章（しじゅほうしょう）

学術、芸術上の発明、改良、創作に関して事績の著しい者に授与される褒章。平成23年度秋の受賞者は25名でした。（内閣府webより）

平成23年度永年勤続者表彰式



左から櫻井副台長、鵜澤さん、鶴山台長、野口さん、花岡さん（倉上さんと古畑さんは欠席）。

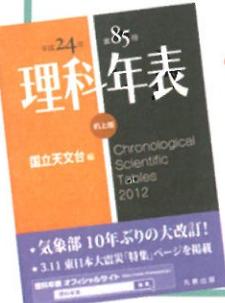
2011 11 21

NO.02

ぶしらせ

平成23年度の永年勤続者表彰式が2011年11月21日に所属長をはじめ職員が参列する中、行われました。鶴山台長の式辞の後、各人に表彰状授与並びに記念品が贈呈され、引き続き玄関前での記念撮影が行われました。永く天文台を支えてこられ、表彰された方は、次の5名です。

野口 卓（先端技術センター）
鵜澤佳徳（先端技術センター）
花岡庸一郎（太陽観測所）
倉上富夫（ハワイ観測所）
古畑知行（ハワイ観測所）



今回もさまざまな改訂や特集の追加が行われています。とくに東日本大震災を踏まえた特集記事は必読です。

『平成24年 理科年表 (国立天文台編)』が刊行されました

NO.03

ぶしらせ

暦部では金環日食・金星日面経過を特集、天文部では国際単位系を全面的に導入、気象部では平年値を大改訂、物理／化学部では原子量関連を大改訂、さらに40ページ以上にわたる東日本大震災の特集と、充実した内容でお届けしています。（暦計算室：片山真人）